

タイトル：AQB インプラントをもちいた骨移植を行わないソケットリフト法

所属：岸本歯科医院 院長

氏名：岸本 幸康



抄録

上顎臼歯部の歯槽骨は抜歯後委縮して、インプラント埋入が困難になる場合がしばしば起こる。このような状態の場合には、サイナスリフト法を用いて骨造成を行いインプラント埋入することが多い。しかし、手術侵襲が大きく、使用した移植材料が不具合だったり、漏れ出すと上顎洞炎が発生することがある。一方、ソケットリフト法は侵襲が小さい反面、盲目的手術であり、挙上した上顎洞粘膜が破れる可能性が大きくなる。こうした状況から、近年、骨形成能に優れたハイドロキシアパタイトをチタン金属にコーティングしたインプラントを用いて、骨移植を伴わないソケットリフト法が応用されるようになった。上顎洞粘膜が破れても、移植材が漏れ出ることがないため、上顎洞炎の発生の可能性が小さくなってきた。今回はプラズマスプレー法で製造された AQB インプラント（HA インプラント：アドバンス社製）を埋入した症例を供覧する。ハイドロキシアパタイトの優れた骨形成能により歯槽骨が薄い症例でも早期にしっかりした骨結合が得られ、予後の悪い症例でも、インプラント窩と上顎洞が貫通することはなかった。

略歴

- 1986年 東京歯科大学卒業
- 1990年 東京歯科大学大学院修了 歯学博士
- 1990年 東京歯科大学非常勤講師（2000年まで）
- 1990年 厚生省歯科診療室勤務
- 2001年 岸本歯科医院開設

公益社団法人日本口腔インプラント学会 専門医
日本先進インプラント医療学会専門医・指導医・評議員